SPECIAL ARTICLE 特集

アルコール依存症に合併する身体疾患とその治療

2 アルコール性肝障害
Alcohol and liver

東京女子医科大学消化器内科
（准教授）
谷合 麻紀子
Makiko Taniai

Summary

わが国におけるアルコール総消費量は1999年をピークとして若干の減少傾向にあるが，女性の飲酒率，大酒家や問題飲酒者数は増加している。慢性的な過剰飲酒に起因する臓器障害で，最も高頻度かつ重篤なものの一つがアルコール性肝障害（alcoholic liver disease：ALD）である。ウイルス性肝炎の減少もあいまって，全慢性肝疾患におけるALDの比率は増加し臨床上の重要性が増大し，急性アルコール性肝炎は以前より重症例の救命率の低さが問題であった。禁酒治療では，抗酒薬に加え，飲酒欲求を抑制する新たな薬剤がわが国でも使用可能となった。アルコール性肝硬変では栄養療法や新たな利尿剤など保存的加療の進歩により，重症アルコール性肝炎も集学的治療の進歩により救命率は上昇し，ALD全体の予後は向上し，今後は長期生存例の肝発癌が危惧される。ALD症例では，人格，家庭環境，社会因子などの要素が複雑に絡み合い治療を困難にする場合も多く，個々の患者に対応した治療が求められる。

Key Words　脂肪肝，アルコール性肝障害，アセトアルデヒド，アルコール性肝炎，アルコール性肝硬変

はじめに

現在のわが国では，飲酒は日常的行為であり，個人の生活習慣を形成する重要な因子の一つである。飲酒がかかわる医学的問題は広範な領域を含むが，そのなかでも，肝障害は高頻度で生命予後にもかかわり，重要である。肝臓は，人体における主たるアルコール代謝臓器であり，アルコール自体およびその代謝産物により大きな影響を受ける。本稿では，アルコール性肝障害（alcoholic liver disease：ALD）に関して概説する。

アルコール消費量とALD

従来，わが国の国民1人当たりのアルコール消費量は欧米に比し少ないとされてきたが，直近20年間でアルコール消費量が増加している数少ない国の一つである。現在，成人人口1人当たりアルコール飲料消費量は約7リットル程度で，欧米の約6割程度とされるが，わが国には飲酒不可能な ALDH2欠損者が欧米に比し多いことを考慮すると，飲酒可能者1人当たりのアルコール消費量は少なくはないと推測される[1)]。わが国におけるアルコール総消費量の年次推移は，戦後に著明な増加を示し，1990年代に入り横ばいとなり1999年度をピークにそ

SAMPLE

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.